

第1回新見市地方独立行政法人評価委員会議事要旨

1. 開催日時 平成21年7月17日(金) 13:30~16:30
2. 開催場所 新見公立短期大学 本館第1会議室
3. 出席者 (評価委員会) 新中委員長、田中委員、宮田委員
(法人出席者) 難波学長、奥舎事務局長、森岡課長、村田課長、神原室長、
小寺主査、真壁主任
(事務局) 小川次長、安達主任
4. 要 旨
別紙会議資料によって、平成20年度の実績報告に関する審査及び四年制大学化に関するスケジュール等についての報告を受けた。実績報告については、今回は大学からの説明のみにとどめ、次回評価委員会にて審議することとなった。詳細は以下の議事要旨のとおり。

(1) 平成20年度実績報告書及び財務諸表の評価について
項目別評価について
新中委員長の指名により、法人側から資料1の実績報告書について中項目毎に区切って説明した後、質疑応答を行った。
【以降法人側の説明部分は省略。質疑部分のみ記載。】
(委員長) : 基本的なことだが、シラバスとは何か。
(森岡課長) : 講義の内容や計画を示した冊子になります。
またFD委員会のFDとはファカルティディベロップメントと言い、教育内容や方法を改善するとの意味があり、委員会をもって組織的な取り組みをしている。
(委員長) : 看護学科において家庭訪問を実施しているようだが、どのようなものか。
(村田課長) : 地域看護学専攻科が地域を定めて、健康に関する調査を現地へ赴き実施するもの。昨年は高尾地域で実施した。
(宮田委員) : 学生の授業評価を基に授業改善に取り組んだとあるが、具体的な案件を1つでいいので教えてほしい。
(森岡課長) : 学生が教員の授業方法等について要望を出すもので、小さい内容であれば、声が小さく聞きにくいとか教科書の使い方が悪いといった内容。今年からは職員も評価するようにしている。また各教員も自分の特色を崩さない範囲で対応するようにしている。
(宮田委員) : その改善提案については、口頭で提案するのか、文書なのか。
(森岡課長) : 文書で提出をお願いしている。
(宮田委員) : 教員派遣講座で各種団体から講演依頼があったとあるが、どのような団体から依頼があったのか。
(森岡課長) : 老人クラブや愛育委員や小学校など市内各種任意団体より、教員と講演内容を指定し依頼をいただいている。
また市内からの依頼については、無償で派遣をさせていただいている。
(宮田委員) : 市外からの依頼はあるのか。
(森岡課長) : 学会のような専門的な場での講演依頼はある。
(委員長) : 若干話がそれるが、市立の短大なのに、地元就学生が1割に満たなく残念に思うが、学术交流センター(にこたん)や教員の講師派遣など、市民との交流があると言うのはいいことだと思う。
(宮田委員) : 良い講演が多いので、市報等でのお知らせを増やしてもいいのではないか。

- (宮田委員)： 一般利用者での図書館利用は何時まで可能なのか。
- (森岡課長)： 20時まで学生と同様使用可能です。ただし水曜日は学生のみ利用となる。
- (宮田委員)： 3の2)の(2)の生活支援の項目に「担任への連携がやや不足」とあり、(3)の進路支援では「担任と協力しながら、個別指導を実施した」とある。生徒は結局満足できているのか。
- (村田課長)： 他大学と比較して、学生との連絡は密にとれていると思っている。看護学科では1年生から個別面談を実施しているが、最近の学生の気質として自ら相談を希望しない学生がいる。
また現在休学をしている者が2名おり、原因は精神的なものによる。これは、入学時に既に進路が決められているためのギャップだと思われる。
- (宮田委員)： 兵庫県出身者が96名と多いが、当大学を選択する原因は何なのか。アンケートはとっているか。
- (委員長)： 兵庫県の北部が特に多い。共生高校も同じだと思う。
- (村田課長)： 原因は市立の学校と言うことで、授業料が安い。これが一番の要因だと考えている。
- (委員長)： 九州出身者はそのとおりだと聞いている。
- (村田課長)： 中国自動車道のおかげで、身近であることも考えられる。
- (委員長)： 話はわかるが、最近の学生は地元の祭りに積極的に参加しており、市民との一体化が図られており、非常によい。
- (田中委員)： 高校等への広報活動は誰が行っているのか。
- (村田課長)： 教員が、地域を定めて1日4校程度訪問している。
- (村田課長)： また今週末にオープンキャンパスの開催を予定しているが、申し込み件数が200件以上ある。
- (宮田委員)： 図書館の閲覧室が学生の実習室として活用されているようだが、個室なのか。どのようなものか教えてほしい。
- (森岡課長)： 10人程度入れる部屋が3部屋ある。本来は閲覧室であったが、自習室として利用している。時間は20時まで。
- (委員長)： 土日も含めすべて20時まででは、職員が大変ではないか。
- (森岡課長)： 司書3名と事務所へ司書資格を持つ臨時職員を1名置き、ローテーションを組んで実施している。
- (宮田委員)： 英語専門の准教授が市内の小中学校へ英語指導しているようですが、小学校、中学校それぞれ何校程度か。
- (事務局長)： 小学校は高尾、上市の2小学校、中学校は失念したが2校。いずれも教育委員会が文科省より英語の認定を受けた学校へ派遣している。
- (委員長)： 審議会同士の話はうまくいっているのか。例えば経営審議会と教育審議会など。
- (事務局長)： 今現在は、それぞれの審議会が相反する意見を出すことはない。合同開催の機会を増やすなど工夫し、全体の意識改革を進めたい。
- (委員長)： 全国公立短期大学協会とは文科省にあるのか。
- (森岡課長)： 文科省とは別に協会がある。
- (宮田委員)： 大学の教員採用試験の状況はどのようになっているか。
- (神原室長)： 設置申請段階で人員配置を示さないといけないため、現段階で既に決定している。
- (宮田委員)： 国籍条項を規定していないが、どのようになっているか。
- (森岡課長)： 現段階で応募はない。
- (宮田委員)： 専門知識が必要な施設・設備とはどのようなものか。
- (森岡課長)： コンピュータの関係や消防設備など、市役所で一般的に外部委託する

ようなもの。

(委員長)： 地元からの進学はどの程度あるのか。

(村田課長)： 看護の3年生は多く7名が在籍している。2年生が0人で1年生が2人となっている。

財務状況について

新中委員長の指名により、法人側から資料2の財務諸表について短大側から説明した後、質疑応答を行った。

【以降法人側の説明部分は省略。質疑部分のみ記載。】

(委員長)： 法人1年目にしては、繰越資金がないなかで、収入の努力、支出の削減は認められる。あと教員採用を公募したが採用に至らなかったのが残念。

(委員長)： また費用等については行政からの持ち出しなので、どれだけ地域に貢献できたか重要。それについても問題ないのではないか。あと法人の希望である設備改修等に対する積立の方は、委員会として意見を言えるのではないか。

全体評価について

事務局より、審査内容等について説明。

【特に意見なし】

(2) 四大化に伴う今後のスケジュールについて

計画、状況、スケジュールについて

四大化準備室の神原室長より、計画、経緯、状況、スケジュール等について説明を実施。

【以降法人側の説明部分は省略。質疑部分のみ記載。】

(委員長)： 四大化されれば、教務室等もわかる必要があるのか。

(事務局長)： 教務室もだが、規程、学則などわかる必要があるものと一緒に活用できるものの分別を現在行っているところ。大変な作業となっている。

(3) その他

次回委員会の開催日等について

(委員長)： 法人側から説明のあった内容を受け、評価委員会にて評価をする必要があるが、次回までに各委員で評価をして事務局でとりまとめるか、次回で1項目毎に意見を出し合うかどっちが良いか。

(事務局)： 項目別に意見を出し合うやり方であれば時間がかかるので、事務局にて一旦とりまとめても良いが。

(委員長)： 委員も3人なので、次回委員会にてとりまとめても問題ないのではないか。最終的にもう2回程度必要になるかもしれないが、今回は意見のすりあわせを行うことでどうか。

(各委員)： 異議なし。

(委員長)： 全体評価もする必要があるが、どのようにするか。

(事務局)： 案として、次回の委員会で出た意見をこの様式に事務局でまとめ、記述したものを委員会にて協議いただく。この方法はどうか。

(各委員)： 異議なし。

(委員長)： 以上の意見を踏まえ、次回を7/29の13:30から、場所はこの場所で異議がないか。

(各委員)： 異議なし。

その他

(事務局)： 1件目として、報酬は前年と同一口座への振り込みとして可能か。

- (各委員)： 問題なし。
- (事務局)： 2件目として、評価委員の任期が9月24日で任期が切れる。事務局としては、もう一期留任願いたい。
- (委員長)： 四大化に向けた過渡期でもあり、設置の際からも携わっているので、留任させていただく。
- (各委員)： 了解。

- 以上 -